

浜松市要介護度 改善評価事業 取り組み事例報告書

遠州鉄道株式会社
ラクラス中島デイサービス
機能訓練指導員
岩崎 伊吹
戸田 伸佳



目次

1. ラクラス中島の紹介 …P3

2. 対象者について …P4

3. 取組み経緯 …P5

4. 取組み報告 …P6～12

5. まとめ …P13



1. ラクラス中島の紹介

P3



ラクラス中島は、2012年に開設。現在定員は48名です。日々、多くの方にご利用いただいております。

ラクラス中島では『 安心して楽しく利用していただけること 』をモットーにしており、介護士・看護師・機能訓練士の3職種が連携しながら、日々ご利用者様の「楽しい」を叶えるサービス提供を目指しています。

2. 対象者について

P4

2021年6月 ラクラス利用開始時点の状況

氏名	H様(93歳、女性)
介護度	要介護4
通所頻度	週2回
既往歴	2021.3 第2腰椎圧迫骨折で入院 2021.4 左下葉肺腺癌、第5～6胸椎転移による脊髄障害(両下肢麻痺)、胸椎後方除圧固定術施行、多発骨転移
生活環境 ADL状況	・入院前はADL自立 ・長女、孫親子と同居 ・近所の方とのコミュニケーションあり ・立位は手すりを両手把持して10秒可能、 歩行は困難なため移動は車いす ・トイレや入浴等は立位保持困難なため二人介助
希望	「家族の負担になりたくない」 「できることは何でも自分でやりたい」 「トイレは自分でやりたい」

3. 取り組み経緯

P5

2021年6月 ラクラス中島利用開始
機能訓練は現病歴を鑑み、座位での全身運動を主に実施

2021年9月 全身の筋力が向上し、立位の安定性が高まる

2021年10月 腫瘍が劇的に小さくなる
機能訓練によるご自身の成長(立位の安定性向上)を実感

更なる改善を目指す意欲に満ちていました

取り組み



H様の意欲に応えるため、上記のステップで取り組むことにしました

4. 取り組み報告【目標設定】

P6

意向確認



ご家族様を交えてどのように進めていくか相談

最終目標



歩行器で1人で歩く

第1ステップ つかまり立ち



1人でつかまり立ちができるように訓練

第2ステップ 歩行訓練



平行棒内を歩く訓練

4. 取り組み報告【プログラムの作成、実施】

P7

- 歩行に必要な動作を分解して、段階的に訓練を実施しました。

2021.6(利用開始)から継続して実施

01



関節可動域訓練 (週2回)

足首の関節を柔らかくして立位保持をやすくします。

2021.10 筋力、体力の向上に合わせて開始

02

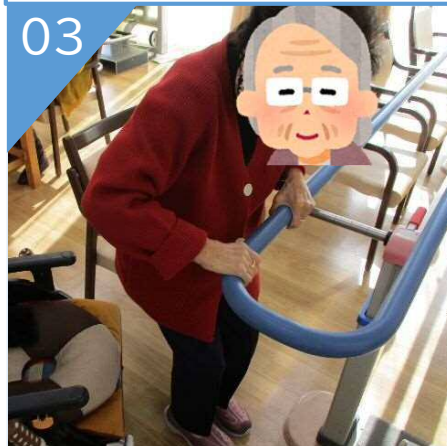


起立、立位保持 訓練(週2回)

立ち上がりのために手すりで補助をしながら立位保持を行います。

2021.12 立位の安定性が向上したため開始

03



平行棒内歩行 訓練(週2回)

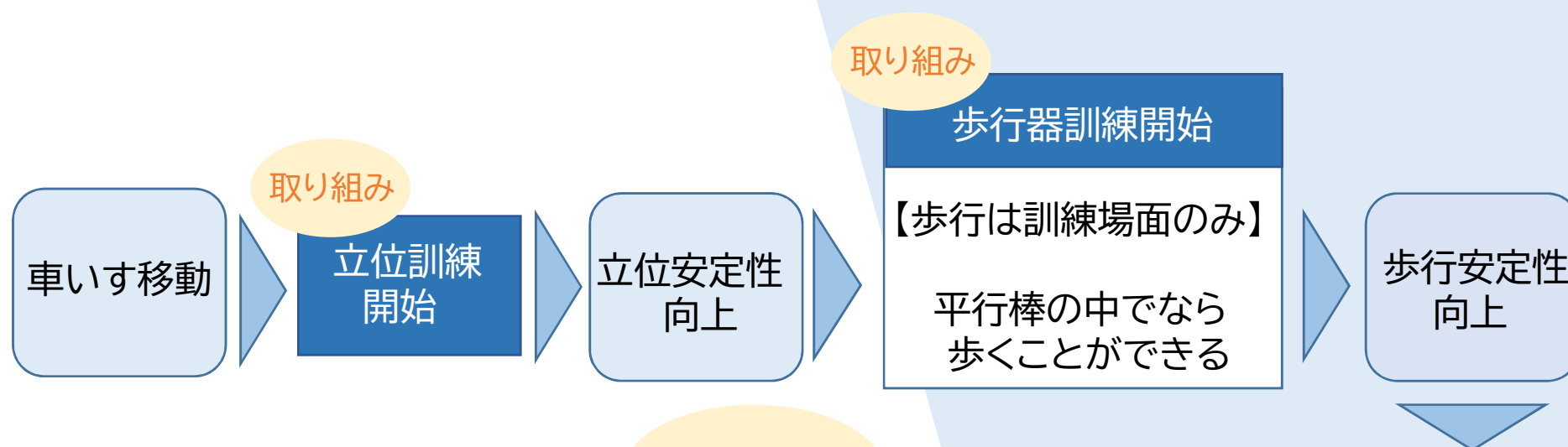
歩行器に移行できるよう手すりを使いながら歩行の訓練をします。

04



訪問リハ(週1回)も利用されているため、担当者と訓練内容を共有し、訓練結果を基に今後お互いの方向性を確認しています。

4. 取り組み報告【デイサービスの生活場面での取り組み】



取り組み

生活リハビリの強化

目標達成

デイサービス・自宅では
常に歩行器で移動



【生活場面での歩行を確保】

- ・トイレ、脱衣所への移動には歩行器で歩いて移動
- ・歩行の機会が増え、生活そのものが訓練になる

4. 取り組み報告 【結果】

P9

運動機能 評価項目	3m歩行	30秒間の 立ち座り回数	立位保持
			
2021.10月	(歩行困難)不可	0回	10秒
2022.12月	歩行器 17.5秒	15回	120秒

- 全ての項目で数値の上昇が確認できました！
- 希望されていたトイレ動作が自立になりました！
- 2022.5月に要介護4から要介護3に下がりました！

4. 取り組み報告 【結果】

P10



主治医の先生が100才まで
じゅうぶんいけますよと言って
くれました。ラクラスで楽しい
時間を過ごさせて頂いている
おかげです。

現在のご様子

施設内やご自宅では見守りのもと
歩行器で歩いていらっしゃいます。

以前は疲労感が強く午前・午後30分ずつ
臥床していましたが、現在は午後20分に
縮小しています。

ご本人の努力に加え、ご家族様・ケアマネ・
訪問リハの方々のご支援やご協力の基で
現れた結果です。

関わった職員も非常に感慨深いものが
あります。

【ご家族様からのお言葉】

ご家族様からの連絡事項

10月の豊洲病院の診察です。10/4 CT. 10/11 診察時
よくおしゃします。血液検査でも、おやすみ天気にもおやすみ
主治医の先生から、100才まで、じゅうぶん いけますよと
言ってくれました。ラクラスで楽しい時間を過ごさせて
頂いているおかげです。ありがとうございます

4. 取り組み報告 【経過】

P11

2021年			2022年												
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平行棒内での訓練	立位訓練開始														
			歩行訓練開始												
				介助歩行可能に											
							見守りでの歩行可能に								
歩行器での訓練							担当者会議 ・訪問リハビリとの訓練内容共有 ・訪問リハビリでの歩行器訓練開始決定								
									施設での歩行器訓練開始						
							【介護度】 要介護4⇒3						施設の生活場面で 歩行器での移動を開始		
														自宅・施設内は常に 歩行器での移動が 見守りで可能に	

4. 取り組み報告 【再評価、新たな目標へ】

P12

今回の目標と取り組み

2021年10月 歩行器歩行の獲得を目指し、立位訓練開始

2022年4月 平行棒内見守り歩行が可能に

2022年12月 歩行器での屋内歩行が可能に

【再評価】

- ・筋力向上、立位動作安定
- ・ADL向上
(屋内歩行見守りで可、トイレ自立)
- ・**目標達成！**

「元気になったから横にならなくても大丈夫」「自分でやれるよ」と前向きな発言が聞かれるようになっていきます。

新たな目標へ

新しい目標

お孫さんと歩いて外出する

- ・H様の身体機能の大幅な向上と介護度の改善が認められた。
- ・H様の希望や意欲を受け止め、意向に沿った訓練の立案・提供を行ったことで、よりご本人の意欲向上が促され効果的な訓練に結び付いた。
- ・目的を明確にしたことによって具体的なプログラムを作成でき、効果が表れた。
- ・身体機能の向上に合わせて訓練プログラムを段階的に変更し、生活リハビリに繋がれたことで目標を達成することができた。
- ・他施設でも本事例のような取り組みができるように、参考となる訓練やプロセスを共有していく予定。